

光愛病院

(平成 27 年 2 月 9 日訪問)

平均在院日数 107 日(平成 27 年 1 月 31 日)

積極的な取組など

- 人権委員会の委員が患者会や家族会、弁護士等、半数近くが外部委員だった。
- 各病棟で週 1 回、お話会があり、その時に書かれたホワイトボードの記録が残っていた。
- 携帯電話は決められた場所であれば使用可能。
- 病棟出入口付近に職員の名前と職種と顔写真、電話そばに人権センターや弁護士会、ぼちぼちクラブの電話番号が掲示されていた。
- 入院時のしおりや掲示物には、患者の権利についての情報が多くあった。

前回の訪問(平成 21 年 11 月)から改善されていたこと、改善されていなかったこと

- 前回訪問時、複数の病棟で肌寒く感じたが、今回はエアコンが効いていた。
- 前回訪問時、1 病棟で「はぐらかされている」と感じている患者、誰がケースワーカーなのか分からない患者がいた点は、今回は「他に振られてばかりで誰に相談していいのかわからない」との声があった。
- 5、7 病棟の隔離室では、病状によってナースコールを置かずドアを叩いて知らせるので、患者からは「夜はなかなか来てくれない」との声があったことについては、今回はそのような声はなかった。
- 6 病棟のモニターカメラの映像画面が患者から見える点は、今回も変わっていなかった。

病院について

前回訪問時より 45 床減り、201 床になっていた。病棟は 1 つ減っていた。病院側によると、施設に退院することが多いが、調子を崩して再入院になる患者もいる。これまで徐々に病床を削減し、訪問看護の事業所を 2ヶ所持つなど在宅支援医療を進めてきたが、病床削減についての今後の方針は検討中。稼働率は約 95%程度で推移しているとのことだった。

人権委員会・意見箱

人権委員会は月に 1 回開催。外部の人権相談員による人権相談日があり、月 2 回、14 時～16 時に外来の診察室で行われていた。その時間帯であれば病棟からでも人権相談員の携帯電話に電話がつながる。全病棟に人権委員会宛の意見箱が設置され、その横に投書の回収・検討・回答の流れが書かれた掲示があった。回収は月 2 回、人権相談員が行う。回答は病棟に掲示されていた。病棟で開催されているお話会宛の意見箱がある病棟もあった。その

意見箱への投書はお話会で検討される。

PSW・退院支援

PSW は 9 名。病棟担当 8 名とデイケア 1 名。病棟ごとの担当も決まっているが、基本的には患者ごとの個別担当制。相談室は病院の玄関に入っすぐの場所にあった。地域移行・地域定着支援事業に期限が設けられる等、利用のハードルが高くなり、この半年は利用がない。長期入院患者の退院支援として、月 2 回お話会を開催し、1 病棟は定期的にピアサポーター 2 名に来てもらう取組を続けているとのこと。

診察

診察は、1 病棟と 6 病棟ではベッドサイドや診察室で、2 病棟と 7 病棟では診察室で行われるとのこと。

薬

6 病棟では職員が病室を回って配薬をするが、1、2、7 病棟では歩ける患者は詰所のカウンターまで取りに行く。1 病棟では薬の自己管理をしている患者は 2 名いた。完全に自己管理ではなくても、支援を得ながら自己管理に近づけているという患者もいる。自己管理の患者も詰所前で飲んで、それを看護師が確認することになっていた。

金銭管理

金銭管理料は 100 円/日。それとは別に貴重品管理があり、医事課で通帳や手帳などを預かる場合の管理料は各 50 円/日。保険適用外費用の中に「年金管理代行 1,000 円/回」という項目があった。通帳と印鑑を病院に預け(貴重品管理料各 50 円/日)、2 ヶ月に 1 回患者名義の通帳に振込まれる年金を、その通帳から引出して病院の預かり金に移す(年金管理代行 1,000 円/日)。

面会

病棟内の面会室や面談室、デイルーム等のできる。

電話

7 病棟には 2 台、その他の病棟には 1 台ずつあった。各病棟とも、デイルームや廊下の詰所から離れた位置にあった。椅子と左右に仕切りがあった。

食事

特別献立日が月 1 回あり、お造り等のいつもと違うメニューが出る。選択メニューは週 2 回昼食時のみ。

入浴

日曜日以外は毎日入ることが出来る。日曜日はシャワー浴。介助が必要な患者は週に 2 回。

掲示物

病棟内には、入院中の患者の権利宣言、病院の理念、看護部の理念が書かれたものや、病棟内の地図が掲示されていた。掲示板にはOTプログラムや人権委員会のことなどたくさんの掲示物が貼られていた。ピアサポーター 2 名による「ぐちを聞く会」が月 2 回、病院玄関近くの面談室で行われている。

1 病棟 開放 男女 精神療養 47 床

任意入院 25 名、医療保護入院 22 名。この病棟は 20 年以上の長期入院となった患者が多い。太極拳体操を行うなど体力保持のための OT に力をいれているようだ。退院支援については、看護師によると「金曜日には退院準備のグループ活動を実施しているが、なかなかのってこない。家族の面会はほとんどない。患者が高齢のため、両親やきょうだい亡くなっている場合が多い。若い頃から入院している患者が多いので、社会経験が少ないために退院が怖かったりする。外出のプログラムも企画するが参加者は 5~6 名なので、翌日に報告会を開き、外出した患者には、他の患者に対して報告をしてもらっている。職員はその報告会のために外出の様子動画を撮っている。長期入院患者の関心が地域に向いていくために、スーパーでの買物やバスでの切符の出し方、元入院患者の退院先の部屋での暮らしぶりをビデオに映し情報を提供している。今も病院に残っている患者に対して、例えば妄想を抱えていても暮らしていけますよと伝えていき、現実とのギャップに対応できるような関わりを考えている」とのこと。

隔離室は 2 室、喫煙室は 2 ヶ所。詰所によく患者が入っていて、比較的自由に出入りができるようだった。トイレは少し尿臭や便臭がした。

病室は 2~4 人部屋があった。カーテンがあった。ベッド近くには衣装ケースや床頭台があった。私物庫はあるそうだが、全体に荷物が多かった。病室内に 10 個以上のダンボールを積んでいる患者がいた。8 号室の部屋のドアが壊れて外れていた。

患者の声

「10 年以上入院」「外出したいけど禁止にされている」

2 病棟 時間開放 男女 精神一般 15:1 50 床

病棟の平均在院日数が 323 日。7 病棟から転棟する患者、再入院となった急性期の患者、入院が長い患者もいる。病棟としては、個々にあったりハビリが提供できるように外部との連携を考え、長期の患者の退院促進を試みているとのことだった。

病棟出入口は施錠されていて、6 時~21 時は医師の許可が出ている患者は外出ができる。午前と午後各 1 時間ずつ開錠されるが、訪問時はその時間帯になっても出かける患者はあまり見なかった。25 名は単独で院外まで外出ができ、それ以外は院内外出か同伴外出だった。

デイルームとは別に談話室があり、椅子が 10 脚ほどあった。電気が消えていて、あまり使われている様子はなかった。喫煙室は 2 つあり、1 室は男女使用可、1 室は男性のみ使用可、22 時~6 時まで使用禁止だった。

病室の扉はスライド式やドアノブ式で、擦りガラス

風の強化プラスチックが入っており、廊下から室内は見えなかった。患者によるが、カーテンが使用されているベッドもあった。1 人~3 人部屋があった。

隔離室は 2 室あり、使用中だった。1 室は施錠せずに開放して使用中で、室内に机、床頭台、ベッド、椅子があった。トイレの水を流すボタンは室外だった。

職員によると「病棟が構造的に狭いため、ちょこちょこ諍いがある。プライバシーを守るために病棟内に死角をつくっている」とのことだった。

患者の声

「ケースワーカーはよく病棟に来てくれる」「入浴は日曜以外は自由に入れる」「タブレットを持ち込んでいる」「詰所の中にある貴重品を入れているロッカーの鍵は閉め忘れる患者が多い」「僕は人権相談日があつて助かった。よく話をきいてくれる」「10 年この病院にいる。特別献立日が月 1 回ある。天ぷら・刺身・美味しそうな献立」「水曜日と木曜日は、個人 OT やわくわくグループ(お話会)、金曜日は元気になる会(外出をして食事をする)がある」「去年まではデイケア喫茶もあった。今、喫茶コーナーは病院玄関にあるだけになった」「毎週火曜日、退院した人と呼んで 10 人位で話を聞かせてもらう。家でしんどくなった時、緊急時にはここに電話したら迎えに来てくれた等の話を聞いた。前回のお話会ではどの辺からが病気で、どの辺からが悩みかについての話をした」「外出時は部屋の中の鍵付ロッカーを使っている」「約 4 年入院している。集団生活が嫌で、これまで 2 回逃げ出した。4 人部屋はゆっくりできない。診察は週 1 回金曜にあるが、ゆっくりと話ができるわけではない。以前は自分で料理ができていた。今は飲み薬で手がガチガチになってしまい、包丁も持てない、これが一番の心配」「不在者投票は院内でした。中庭にある売店までは自由に行ける」「看護師は言うてもなかなか対応してくれない。〇〇さんの声がうるさい。主治医は信頼している」「昨年春に任意入院した。生活保護が通り、秋に退院予定だったが延びている」

6 病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 49 床

半数が認知症、他の半数は統合失調症等で、長期入院の患者が転棟してきていたり、短期間の入院の患者もいる。金銭は「今は自己管理ができる患者はいない」とのこと全員が病院管理だった。高齢で車椅子や歩行器を使う患者が多かった。訪問時は OT から揚げをした直後で、デイルームには多くの車椅子の患者がいた。デイルーム内に高めの机があり、看護補助が記録等をしているようだった。歩ける患者が近づいて職員に話しかけたりしていた。

テーブルのところや詰所カウンターを囲むように詰所に向かって座っている患者もいた。歩ける患者 2 名がサポーターのところ話しに来て病棟のことやプログラムについて説明をしてくれた。OT などの

プログラムを楽しみにしているようだった。その後職員に誘われて、作成したカレンダーを壁に貼っていた。掲示物等、病棟を装飾するものが多くあった。

患者の声

「新しい病棟には初めて入院した。きれいなほうが過ごしよい。この病院には自分の意思や家族の意思で何度か入院している。今回の入院は自分としては納得がいていない。この思いは職員にも主治医にも伝えてはいる」「大切なものはこのかばんに入れて持ち歩いている。お金を持ってないのが少し不満」「入院して 10 年。診察はあまりない。退院に向けて薬を自分で管理しているため、自分は詰所前で飲む」「入院して 1 ヶ月ほど。入浴は週 3 回。病棟からは出ない」「入院して半年。食事をして寝るといふ毎日。昨日家族が来て退院してよいと言ってくれた。2 週間後に退院することになった。入浴は週 2 回。お金は病院に預けていて外出はない。早く家に帰りたい。家であれば自由に友達とも会える。公衆電話は使わない」「70 歳代。お金は使うこともないし持っていない」「患者 5~6 人と看護師と一緒に病院のまわりを歩く」

7 病棟 閉鎖 男女 急性期治療 55 床

金銭の自己管理は 12 名。詰所横に鍵付きの貴重品入れがあった。4 人部屋が中心で詰所奥に個室と隔離室、観察室のゾーンがあった。

隔離室は 6 室。隔離室の壁は濃い緑色のため暗く感じた。トイレの横には仕切りがあった。水洗は室内と室外で切り替えられる。モニターカメラがあった。基本的にナースコールは持てるが、壊してしまいそうな場合は持込めないとのことだった。見せてもらった隔離室は壁に落書きがあった。古い落書きは消された跡もあったが、またその上に新しく書かれているようだった。訪問時は、1 室は施錠して使用され、3 室は日中開放されていた。日中開放されている隔離室の患者は、詰所を通過してデイルームに行く。

デイルームから自由に出入りできるテラスが 2 ヶ所あった。外の景色は見えないが花が植えられ、日の光もたくさん入る。詰所から離れた位置に男女別に喫煙室が各 1 ヶ所あった。

詰所カウンターの窓は施錠されず、患者が開けて中の職員に声を掛けていた。声は掛けやすそうだったが、詰所内が広く、中の職員は書類や話し合いなどで忙しそうで、患者が声を掛けてもなかなか職員が来ないことが 2 回あった。

患者の声

「入院して 2 ヶ月。退院の予定は決まっている」「毎日病院職員と一緒に院内を散歩できる時間がある」「買物に行ったら好きなお菓子を買ってきた」「体温や血圧を測っても数値を言ってくれない」「今日は初めて『ぐちを話す会』に行ってきた。話してすっきりしたからか昼寝ができた。病棟内では毎週お話会がある」

検討していただきたい事項

「話をきいてほしい」との声

1 病棟では退院準備のグループ活動、外出プログラムとその報告会等、退院に向けた様々な取り組みに積極的に取り組んでこられたことは伝わってきたが、それでも患者から「ケースワーカーに相談したら『別の人に聞いて』と言われ、看護師に相談したら『別の人に相談して』と言われ、ほかに振られてばかりで誰に相談していいのかわからない」との声があった。

各病棟にお話会などプログラムは多くあるようだったが、複数の病棟で患者から「職員が忙しそう」「話を聞いてほしい」等の声があった。(病院:各病棟の管理者に患者の声について報告し、対応策を検討し、改善へとつなげます。)

薬の渡し方(1、2、7 病棟)

歩いて詰所まで行くことのできる患者は、薬を受け取るために詰所前まで行くことになっていた。(病院:各病棟管理者へ報告し、お話会などで患者とも意見交換しながら、病室訪問に向けて検討します。)

モニターカメラの画面について(6 病棟)

詰所内にモニターカメラの画像を写す画面があった。画面がデイルーム側を向いているためデイルームから丸見えだった。職員によると、ひとつの画面は事故防止のために廊下の死角など共用スペースのみを映していることと、もうひとつの画面は観察室内を映しているが、ぼかした画像になっていることから、プライバシーには配慮できているのではないかとのことだった。ただ、当日訪問したサポーター 2 名は、デイルームで患者と話しているときに、そのモニター画面がデイルームから丸見えであること(ただし、何が映っているかまでは分からない)に気づいて驚いたので、患者や面会にきた家族の中にも同じ思いをした人はいるのではないだろうか。(病院:早急にカメラモニターの配置転換やモニター画像に目隠しをし、必要時にしか見れないよう対処いたしました。)

隔離室について(7 病棟)

天井までの高さの鉄格子があった。(病院:早急に撤去するには設備上難しく、頻回な訪室や関わりで安心感を提供し、なるべく隔離室を使用しない看護、使用したとしても短期間での使用を心がけます。)

精神保健福祉資料より(平成 26.6.30 時点)

188 名の入院者のうち統合失調症群が 119 名(63%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 24 名(13%)、気分障害が 20 名(11%)。入院形態は任意入院 95 名(51%)、医療保護入院 93 名(49%)。在院期間は 1 年未満が 126 名(67%)、1 年以上 5 年未満の患者が 32 名(17%)、5 年以上 10 年未満の患者が 11 名(6%)、10 年以上 20 年未満が 11 名(6%)、20 年以上 8 名(4%)。